

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-69

学校名・団体名	志摩市立志島小学校
HPアドレス	なし
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	新聞がつなぐ地域と子ども ～子ども記者編～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>① 子ども記者活動をもとに、地域プロジェクト新聞「はいじゃ志島」を発行することにより、課題を追究する力やコミュニケーション力、豊かな表現力を育てるとともに、地域への愛着や地域の一員としての自覚をもたせる。</p> <p>② 新聞活用学習、取材、新聞づくりを通して、児童の言語能力の向上を図る。</p> <p>③ 子どもたちの元気な姿を地域に発信することにより、地域の活性化を図るとともに学校と地域との連携を強化する。</p>	

テーマ

新聞がつなぐ地域と子ども ~子ども記者編~

子ども記者活動による地域新聞「はいじゃ志島」の発行

1. 実践の経緯

平成27年度より地域の良さや課題を掘り起こすとともに、子どもたちの元気な活動を地域に届け、地域を元気にする目的で、中日新聞社の新聞作成バス「ドラゴン号」と連携して年3回、地域新聞「はいじゃ志島」を発行。A3版両面カラー刷り。平成27年度は特色ある教育活動や地域の行事の様子、学習の成果などを、プロの新聞記者や校長、担任と児童、PTA会長など、いろいろな立場の人が取材・執筆して作成した。

この「はいじゃ志島」を平成28年度はさらに発展させて、児童が取材して記事を書く子ども記者活動によって作成することにした。題名の字や絵も児童会の子どもたちが作成。子どもの目を通して「伊勢志摩サミット」や「志島の歴史と生活」「防災と交通安全」について取材・編集、さらには自治会や市へも提言し、はたらきかけていきたいと考えた。

2. 実践のわらい(平成28年度)

- ・サミットなどを題材として「今しか・ここでしか」できない期間限定・地域限定の子ども記者活動を行うことで、学びへの意欲を引き出し、課題を設定したり追究したりする力と実践力、発信力を養う。
- ・取材に際してあらかじめ質問を考えたり、答えに対して問い返しをしたりすることによって、言語能力や表現力、コミュニケーション力を向上させる。

3. 実践の方法

- ・各学級が必ず年に1回は取材し、記事を作成する。
- ・夏休み新聞教室の子ども記者体験には希望者が参加し、第3号の第2面を担当する。
- ・取材先や取材の内容については、指導者がアンテナを高くし腹案を用意するが、話し合いの中で子どもたちの発想を大事にしながら進めていく。
- ・各号に必ずアンケート結果のグラフや具体的な地図を入れ、文章だけでなく多様な表現方法にふれさせる。
- ・「はいじゃ通信」を発行して活動の内容や様子を保護者に周知し、取材等について協力を得る。

4. 実践の内容

①第1号(4年) テーマ「サミットがやってくる」

取材先

- ・オーストラリア出身で志島在住の男性
- ・伊勢エビやアワビの漁業関係者(三重外湾漁協)
- ・ホテル志摩スペイン村勤務の保護者

内容

- ・サミットへの思い、地域の生活や仕事への影響

アンケート

- ・志摩市でサミットが開かれることについてどう思うか
- ・行ってみたいサミット参加国

取材のミッション 言葉づかいに気をつけて、はっきり質問する。

わかったこと

- ・多くの人が「志摩が有名になってうれしい」と歓迎しているが、漁業では、仕事ができないなどの影響もある。またテーマパークやホテルなども期間中は閉鎖するなど、観光業への影響も出ている。

②第2号(4年) テーマ「サミットがやってきた」

取材先

- ・サミット会場となった志摩観光ホテルと料理を担当した総料理長
- ・会場の近くに住む賢島地区の住民
- ・警備を担当した地元の警察官
- ・真珠養殖業者
- ・サミットに南張メロンを提供したメロン農家
- ・パトカーの写真を撮った竹村先生

内容 ・〇〇さんにとって、サミットはどうだったか
・これから志摩市は、どう変わっていくか

アンケート ・サミットで志摩市や三重県の良さをアピールできたか
・何回、検問を受けたか そのときの様子は？

取材のミッション **あらかじめ考えておいた質問をして答えてもらったら、もう1回質問をしたい、問い返しをしたいする。**

わかったこと ・多くの人に支えられてサミットが成功した。また豊かな自然やおいしい食べ物など、伊勢志摩のよさをアピールすることもできた。しかし観光業や漁業には課題も多い。今後の取り組みが大事との声もある。

③第3号(2・3年、夏休み子ども記者体験) テーマ「志島の生活と歴史」

2・3年 生活科・総合学習で調べた志島のいいところについて取材したり見学したりしたことを記事にまとめた。海女小屋での取材やあわび市場の見学、地元の「アラメ煮」体験、志島のおもしろスポットの地図作成、キャラクターづくりなど多彩な活動を通して、子どもたちは楽しく子ども記者活動に取り組むことができた。

夏休み子ども記者体験

地域に残る古墳について、地域の有識者に案内してもらったり、三重県埋蔵文化財センターからの出前授業を受けたりして、取材体験を行い、記事を作成した。夏休みの活動のため希望者対象ではあったが、全校児童47名のうち22名が参加した。高学年児童は古墳の様子や成り立ちについて、低学年はまが玉作りで体験したことなどを記事にした。

④第4号(5・6年、1年) テーマ「防災と交通安全」

5・6年 5月から半年以上かけて取り組んだ防災に対するアンケート調査の結果とともに、自治会長には震災発生時への地区の備え、ひとり暮らしのお年寄りには災害発生に対する不安、元警察官で阪神淡路大震災での救援活動経験者には日頃の備えの重要性などを聞き取りして記事を書き、自治会や市への提言を行った。

1年 学校の行き帰りや遊びに行くときの交通安全について、見守りをしてくれている人の話を聞き、自分たちの現状を見つめ直しながら、できることを考え実行していくことをねらいとして取り組んだ。おうちの人へのアンケートの他、登下校の安全を支えてくれている交通安全ボランティアや教頭、警察官に話を聞き、みんなが自分たちの交通安全について心配していること、自分たちの安全が多くの見守りによって成り立っていることを、1年生なりに実感したようだった。

5. 児童や地域の変容

- ・最初は話を聞くこと、メモをとることでせいいっぱいだった子どもたちが、自分の言葉で質問し、問い返し(取材のミッション)をできるようになってきた。このことからあいさつやふだんのやりとりを1問1答で終わらせない「1.5倍運動」に全校で取り組もうという機運も生まれてきた。
- ・「はいじゃ志島」第4号では、5・6年生が防災についてアンケート活動や取材したことをもとに、地域住民や市への提言を行った。またできあがった「はいじゃ志島」を子どもたちが地区内にアンケート結果とともに提案しながら配布する活動も実施した。このように生活をよりよくするために自分たちで考え、行動することは、シティズン・シップを育てるものであり、主権者教育につながる活動であるととらえている。
- ・地域の人たちに出会うと「学校が配ってくれる新聞、すごく楽しみなんやわ。」「古墳や志島のこと、子どもらが勉強してくれるのはうれしいなあ。」などの声が聞こえてくる。また「歩いて回ってアンケートをとる活動はすばらしい。自治会もこれに答えて動かなければ…」との発言も聞かれた。子どもたちの元気な活動を発信することは、地域の活性化につながっていくと改めて実感した。